

「平成 30 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を実施しました

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制設備事業」の継続事業として、「平成 30 年度中四国産学連携合宿授業～学生の未来を創る研究会～」を、平成 30 年 8 月 30 日～9 月 1 日にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)にて実施した。

本事業は、県立広島大学主催で、公益財団法人マツダ財団の協力により、2泊3日集中合宿形式で実施。

講義内容は、他大学の学生とチームになり、米国や欧州、中国の各市場の担当者となり、その市場に合った「10年後の若者のための車」を商品企画する。

チームで、ゴールに向かい、最善の結論を導き出すために、理性的に、批判的に、意見交換を繰り返し、「議論」する。正解のない課題解決のためにどうすれば良いかを、自分たちで考え、解決方法を見つける。「正解のない課題に立ち向かう力」を身に着けることを目的としている。

自ら考え、論理立て、聞く側を納得させることは、社会で必要な力であり、そのために必要な「気付き」を与え、行動の変化を起こすことで、就業力育成に繋げている。

日 時：平成 30 年 8 月 30 日（木）～平成 30 年 9 月 1 日（土）

場 所：マツダ本社，サテライトキャンパス広島

参加大学：県立広島大学，岡山県立大学，岡山理科大学，四国大学，島根大学，島根県立大学，
広島修道大学

参加人数：学生 29 名，マツダ財団 1 名，参加大学教職員 9 名

最 優 秀：チーム名；とんこつ コンセプト；若者に愛される車を提案したい 担当市場；欧州

講義終了後の学生のコメントを一部紹介します

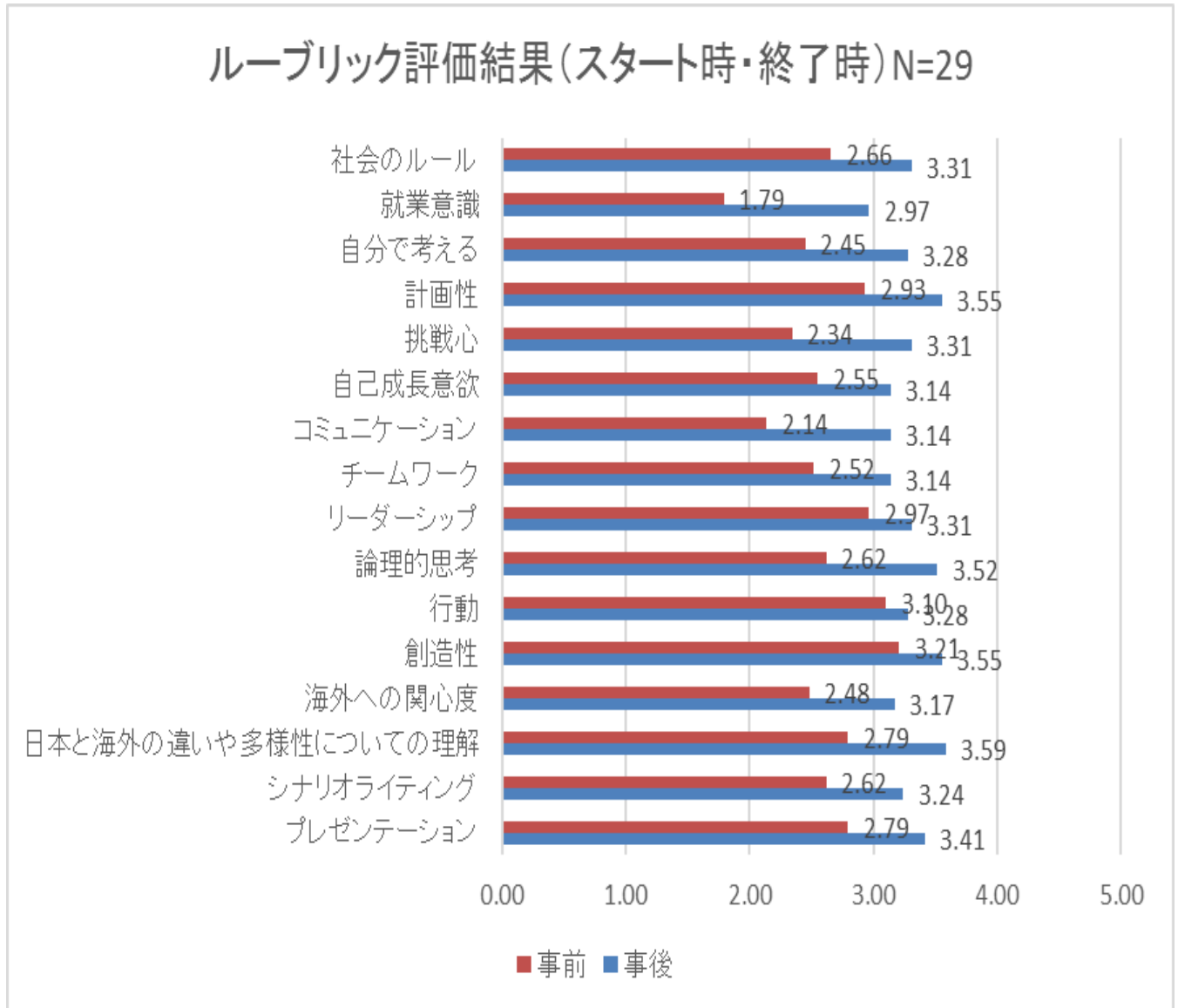
- ・ 今回の合宿では正解のない課題に挑戦した。3人チームで夜通し悩み、課題に取り組むことができた。最初の段階から既につまづき、プレゼンが出来るか不安に感じていたが、協力して資料を作成し、発表に至ることができた。この2泊3日で困難な課題にチームで取り組む経験を積むことができた。もっと効率的な考え方や方法があったように思われるので、今後の課題解決の際には是非役立てていきたいと思う。
- ・ 少人数グループに分かれて、討論をして今までに体験したことのない濃い話し合いができた。車の市場やシステムなどはあまりわからない状態だったが、この合宿を機に、車はもちろん、それ以外の環境や状況について学びたいと思った。日本だけでなく、海外のことについても目を向けていくと、もっと視野が広がるということを改めて感じた。興味がないからという理由で学ばずにいるのはもったいないと思ったので、大学へ戻っても持続して勉強しようと思った。
- ・ 今回参加してよかった一番の点は、違う大学の学生と約2日間にかけてひとつの課題に対して全力でやれたことがあげられる。デザインだけの視点しか考えられなかった自分が、違う分野の人と課題を進めることによって、普段持てない観点を客観的に捉えられたので、非常に素晴らしいものとなった。改善点としては、もっと自分を出せば良いなど考えており、早くから溶け込んでいくためには大切だと思った。

【授業後の満足度】

参加者 29 名中（100%回答） 4 件法 平均値 3.41

4：満足→18名 3：やや満足→7名 2：やや不満→2名 1：不満→2名

■授業前後の伸び評価結果



総合的に、すべての評価項目で数値が上がる結果となり、昨年度と同様の結果となった。

伸びの数値が高かった上位3つと挙げると、1位「就業意識」2位「コミュニケーション」3位「挑戦心」であった。

「就業意識」については、工場見学において、会社概要および、「グローバルビジネスと商品開発について」の事例紹介などをおおまかに学ぶ体験を得ることで「就業意識」へ高まりも得ていた。「コミュニケーション」では、初めて出会う仲間と交流を深め、チーム活動を計画的・効率的に進行するために、役割分担や計画の立案が明確となるガントチャートを用いた。さらに活動の中で、チームでゴールをイメージし、情報共有をしながら与えられた課題に向かって試行錯誤に取り組んでいた。「挑戦心」では、「正解のない課題の解決」のためにどのようにすれば良いかの実践を通じて、自分たちで考え抜こうとしていた。与えられた難しい問題から逃げずに挑戦し続け、時には講師に質問をし、何度も軌道修正を繰り返していた。これにより、目標に向かって考え行動することが、「挑戦心」の強化に繋がったと思われる。



【マツダミュージアム見学】



【グループワーク】



【プレゼンテーション】



【集合写真】